

令和7年度 第2回 香南市地域公共交通会議 議事録

- 日 時：令和8年1月13日（火）14時00分～15時30分
- 場 所：香南市役所本庁 305・306 会議室
- 出席委員：別府誠（香南市副市長） 坂本泰資（高知東部交通（株））
今西俊雄（（有）平和観光） 中村光明（（株）のいちタクシー）
鈴木勝也（土佐くろしお鉄道（株））※代理
別役修（香南市社会福祉協議会） 吉田雅彦（住民・利用者代表）
山中節子（住民・利用者代表） 十川牧子（四国運輸局高知運輸支局）
安澤友行（四国運輸局高知運輸支局） 岸野真輔（南国警察署）
下本聖憲（高知県中央東土木事務所）
浅井祐介（高知県交通運輸政策課）※代理
坂本充子（香南市教育委員会） 都築敏夫（香南市高齢者介護課）
- 欠席委員：山本倫世（（有）さくらハイヤー） 野島康博（（有）野島ハイヤー）
松山明夫（（社）高知県バス協会） 西内裕晶（高知工科大学）
門田健一（土佐国道事務所）
- 事務局等：小川哲弘、竹下洋隆（地域支援課）
土居貴之（えこまち研究室）

1. 開会

委員20名のうち15名が出席しており、会議が成立していることを報告。

会長挨拶

○別府会長

現在の委員の任期につきましては、令和8年3月31日で満了となっており今回が現任期における最後の会議になると思われまます。委員の皆様におかれましては2年間、香南市の公共交通行政に多大なご尽力、ご協力をいただき誠にありがとうございました。

本日の会議におきましては、「地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の事業評価」について協議の上、承認をいただければと考えております。

また、令和8年10月からの地域公共交通再編案についても、進捗状況についてご報告をさせていただきます。

事務局の方から説明の後、ご協議いただければと考えておりますのでよろしく願いいたします。

2. 協議事項

地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の事業評価について

○事務局より説明

○別府会長

評価結果として、手結・住吉線だけが目標を達成できていない。目標が高すぎたということか。

→事務局より回答

目標としては、周知等を行うことで若干の利用者増加を見込んでいた。地域で行った説明会では乗合タクシーの存在を知らない方も多かったが、運賃の安さ等に対する反応は良かった。元々の利用者数が少ないので、目標設定が難しいところがある。

○吉田委員

手結・住吉の方でも国道沿いに住んでいる方は、東部交通のバスを利用するのではないかと。国道から遠い方に使ってもらえていれば、他の路線と利用者数の多寡を比較する必要はないように思う。

→事務局より回答

あくまで補助路線に対する事業評価であって、これをもって運行の是非を判断するものではない。

○別役委員

目標は達成してるが1便当たりの利用者数は少なく感じる。収支率も公共交通自体の利用が少ないと思いますし、こういう状況が一般的なのかもしれないが低いと感じる。目標の設定はどのようにされているのか。

また、大きなバスが通っているところで1便当たりの最大値が大きいなら、小さなバスで運行を増やすなど効率的にするのは難しいのか。

→事務局より回答

目標については、令和6年度の第1回香南市地域公共交通会議において提示したもので、利用者数の動向や啓発事業の効果を勘案して設定している。

バスの大きさについては、現状利用者数が年々増加傾向にあり、データを見てもハイエースでは乗り切らない人数となっている路線の便もあり、様子を見ながらと考えている。

○別府会長

バスの大きさについては、スクールバスと併用しており常に一定の大きさが必要なところもある。

○土居氏

再編等のサポートをしている立場から補足しますと、利便性を維持できる便数を維持しつつスクールバスの運行や道路が狭くハイエースでなければ通れない路線等を考慮していくと、車両を柔軟に動かす余地はほとんどないのが現状である。

また、(4)～(8)の乗合タクシーについては、利用者数が1便当たり1.5や1.2の路線があり、これは乗り合わせができていうことで理想的なカタチで、さらに増やしていくことが望ましい。

質問になるが、(1)～(3)の路線定期運行は1便当たり利用者数の1便というのは片道なのか往復なのか。国の補助基準では往復で2.0を超えていないと補助の対象ではなくなる。

→事務局より回答

国の基準に沿った往復の数値としている。よって、のいち・かがみ線については補助対象だが、のいち中部循環線とのいち動物公園線については補助対象外となっている。

○坂本委員

のいち動物公園線のゴールデンウィークの運休について、のいち動物公園からの無料シャトルバスは当社(高知東部交通)が貸切で運行させていただいており大変申し訳ない感じです

が、気になるのは運休という言葉です。高知運輸支局にお聞きしたいが、位置付けが生活交通確保でこの路線を補助対象としているということですが、こうした理由で運休していいものなのか。運休という言葉は個人的に非常に厳しく思っており、検討の余地もなく補助対象外となるのであれば早めに分かった方がいいのではないかと。

○安澤委員

確認します。

○別府会長

それでは、「地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の事業評価」につきまして、協議が整ったということによろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願いします。

→全員承認

3. 報告事項

令和8年10月からの地域公共交通再編案について

○別府会長

令和8年10月からの地域公共交通再編案については、現在、香南市営バス検討委員会（以下「検討委員会」という。）において協議を重ねており、あくまで現時点での報告になる。

○事務局より説明

○今西委員

吉川・下井線及び吉川・横井線の運行経路変更について、現在運行している事業者としてバスでの運行には問題があると考えている。現在は県道春野赤岡線を運行し事故もなく、安全運行上何ら問題なく運行をしている。住民の要望によって運行の変更が出ているが、変更後の路線の赤岡地区は国道55号線から西側の住宅街で、かつ、運行経路は西側地区全域を網羅していない。この変更の際に、道路状況を確認したが、道幅が狭く赤岡地区では南から北へ坂道となっており、四つ角が50メートル間隔で6ヶ所ほどある。そのうち5ヶ所は一旦停止の標識もなく、見通しの悪い箇所もある。残る1ヶ所については、止まれの標識があるが、南北が坂を下る優先道路となっており非常に危険な状態であった。つまり、四つ角の東西に止まれの標識があり、それを横切る運行になるため問題がある。こういった箇所は吉川地区も同様にあり、道路状況、道幅、バスの優先標識、見通しの悪い箇所へのミラーの設置等、安全に運行できる状況を整えていただかないと、事故及び重大事故が起こる可能性が高い。この地区での運行は、乗合タクシーが望ましいのではないかと。住宅街をバスが運行することは優先標識もなく安全運行上非常に危険である。運転手によっては乗務したくないという方もいる。検討段階であると思うので、このことも含めて検討をお願いしたい。検討委員会で決定されたことを次回の公共交通会議で最終的に協議するとなっているが、そこで反対することはできない。このような危険なところの運行を運輸支局も認めるのか、住宅街でありバスが運行するところではないと考えている。

○別府会長

住民からの要望があり検討はしているが、運行事業者からすると今の状態だとバスの乗り入れは難しいという話である。運行事業者や警察にも入ってもらい安全に運行ができるのか、検討委員会で検討させていただく。

○別役委員

アンケート等を見ると高齢者はバスだけが移動手段というところもあるので、社会福祉協議会としては乗合タクシーのエリア運行はすごくいいと思う。徳王子や西川の方もエリア運行に切り替わるということで賛成なんです、バス停から自宅までの距離が遠いという声もよく聞くので、例えばエリア運行における停留所を増やしたり、便数を増やすことができれば利用者も増えるのではないかと。

また、夜須方面については市内の量販店へ直通で行く便があるといいのではないかと。

○今西委員

すごくいい案ですが、スクールバスの役割を担っている部分もある。利用者は普段から利用するバスの時間は頭に入っている、デマンドではなく今のかたちが経費的にもベストではないかと。利用者の少ないところについては、再編時に調整をしていくことが大事である。

○別府会長

運転手不足といった状況もあるので、すぐにではないが将来的には考えなければならぬ。市としては広いエリアをカバーできるように再編はしていきたい。

○土居氏

乗合タクシーエリア型の住宅地乗降場所は、徒歩圏内であろうということでゴミステーションを基本に設定している。新たな乗降場所については、ヒアリング等が上がっている要望に応じて検討予定である。新たに導入予定の山北・西川地区についてもエリア型であり、乗降場所の密度を上げることも検討していく。

市営バスの利用が少なくなったところに乗合タクシーを導入しているが、人の移動の集約ができているところはバスを残した方がいい。香南市の場合、拠点が点在しているので全域を予約式にするというのは時期尚早と思われる。

○山中委員

地域によって実情は異なるので一律にではなく柔軟な対応がいいのではないかと。危険な場所であるなら、乗合タクシーに変更することを検討してはどうか。場所によっては歩道がないようなところもあるので、安全な場所で乗り降りできるよう引き続きフリー乗降は継続していただきたい。

東部交通の野市龍河洞通のバス停待合は狭い場所で交通量も多く危険だが、のいち駅の南側にバス停を移すことはできないかと。

○坂本委員

野市龍河洞通の1つ東のバス停（野市東町）の乗車率が高いが、運行経路上のいち駅の南を運行するとなるとそのバス停を通ることができなくなり利便性が損なわれる。以前、のいち駅ロータリー内への乗り入れの検討もあったが、道幅の狭さ等で断念している。今後、道路状況等の変化があれば改めて検討していく。

○吉田委員

赤岡・吉川の市民館経由の運行について、次回の検討委員会に警察の交通課の方に来てもらい道路事情等を説明してもらえば検討材料になるのではないかと。

○別府会長

客観的に安全面等について警察の方に判断してもらうことは可能なのか。

○岸野委員

事故の件数等であれば情報提供は可能であるが、実際に運行している運転手の意見が一番ではないかと思う。それに対して警察が可否を判断するものではない。

○吉田委員

住民と行政、運行事業者が納得する結論になるように進めるべきではないか。すべて要望どおりにいくわけではないので不満もあると思うが、お互いが納得できるような協議をして検討委員会で決定を下すためにも、第三者から停止線や優先道路等からこの経路がどうかといった判断を示してもらえないか。

○別府会長

なかなか警察の立場では難しいところもあるのではないか。

○今西社長

赤岡・吉川の市民館経由の運行については、住宅街であり、全域を網羅しているものでもない。他から要望があればその都度対応しなければならなくなるのではないか。住宅街を走るのは非常に危険で、もし物損事故が起こった場合（著しい過失や重過失の場合）は運行事業者にも負担があり、過去2回ほど負担をしている。契約なので払わないといけないかもしれないが保険があるのなら保険で対応いただきたい。現状事故もなく県道春野赤岡線を運行している。赤岡・吉川の市民館経由の運行については、乗合タクシー等の全域を網羅できるような運行を検討委員会で検討していただきたい。

○別府会長

本日出た意見については、検討委員会の方でしっかり議論いただき、次回の会議でお示しする。報告事項ですので表決は行いません。

本日の会議を終了いたします。冒頭にも申しましたとおり今回が現任期における最後の会議になると思われま。これまでのご努力に改めてお礼申し上げます。4月以降も引き続き委員をお願いする方も多いと思います。次回の会議は5月を予定しておりますのでよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

4. 閉会